新年のごあいさつ

四国中央市長
篠原　実

新年おめでとうございます

２０２２年　令和４年　寅年が、スタートしました。

新年はみんな平等にやってきます。しかし、迎える一人ひとりの思いは千差万別、複雑怪奇です。ましてその人間が創る組み合わせは、天文学的な数になります。幸運な人も、理不尽なくらい不運な人もあります。

昨年生まれた赤ちゃんはだんだん満１歳を迎えます。そのかわいい背中に自分の運命をしっかり背負って歩き始めます。みんなそうして今日まで生きてがんばってきたのです。１００歳を超える人も１歳にならない幼子もみんな四国中央市民です。同じことの繰り返しをしているようであっても、今の一瞬は二度ともう帰ってはきません。

予行演習のない人生をすべての人が、互いにぶつけ合いながら、泣いたり、笑ったり、怒ったりして生きているのです。過去をいくら振り返ってみても、もう戻りません。それを承知で生きているのです。

今年も私は、自分に与えられた仕事に全力を尽くします。仮に今、その仕事が市民の皆さんの拍手をいただけない事であっても、いつか必ずその拍手がもらえる時がくると信じて、自分の内なる正義と情熱を謙虚に聞きながら、赤ちゃんの笑顔がもっと大きくなるように、寅年の今年、全身全霊を傾けてがんばります。

市民の皆さまのご多幸と弥栄を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。今年もよろしくお願い申し上げます。

四国中央市議会議長
井川　剛

あけまして、おめでとうございます

市民の皆さまにおかれましては、新たな期待と希望を持って、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中は、市政運営並びに議会運営に対しまして、深いご理解と格別なご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、本市出身の真鍋淑郎博士が、ノーベル物理学賞を受賞されるという大変うれしい出来事がありました。この明るい話題は、コロナ禍で沈滞していた私たちの気分を一掃し、また、「研究の原動力のすべてが好奇心」と笑顔でお話をなさっているお姿に、多くの人が感銘を受けました。

さて、地方行政に目を向けますと、現在、本市を取り巻く情勢は大変厳しく、今後は、ウイズコロナ時代、その先のポストコロナ時代の到来を見据えながら、さまざまな施策を考えていく必要があります。

そのような中、昨年、市議会の活動として、新型コロナウイルス感染症に関する要望書を市長に提出することにより、多くの支援策が実施され、市民の皆さま方の安心・安全な生活の実現に結び付けることができたのではないかと思っております。また、政策提案に向けた取り組みとしても、議員発議による政策提案条例の制定を実現することができました。

地方自治体の意思を決定する議決機関である市議会の果たす役割は、今後ますます重要になってまいります。私たち議員に課せられた職責を改めて見つめ直し、議員の力を集結して、この難局に立ち向かっていく所存でございます。

また、これまで以上に市民の皆さまの声を市政に反映させることができますように、議員一人ひとりが研鑽に努め、資質の向上を図り、市民の皆さまに寄り添った、より身近に感じる存在である市議会を目指してまいりますので、なお一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりまして、幸多き一年となりますことを心からお祈り申し上げまして、新年の挨拶といたします。

写真提供：四国中央市観光協会
写真左頁より並び順・撮影者（敬称略）
「御衣黄桜と法要」上野登志　「夕映えの花畑」佐伯　登
「雨あがり」芝﨑静雄　「錦秋の富郷渓谷」雪本信彰